

こころせい

第31号

平成23年 8 月

発行 高知厚生病院
広報委員会

◆ 高知厚生病院の理念・基本方針 ◆

理 念

私たちは、安全かつ質の高い医療を提供し、皆さまに信頼される病院を目指します。

基本方針

1. 患者さまとご家族、更に地域の皆さまの幸せのための医療を実践します。
2. 患者さまの権利を尊重し、真摯かつ温かい態度で接し、心と心が通い合う医療を実践します。
3. 自己研鑽に努め、更に発展向上を目指します。
4. 地域の医療機関や施設と連携し、効率的な医療を目指します。
5. 地球環境に留意し、災害への備えを怠りません。

ブッダガヤ紀行

(その2)

副院長 山口 龍彦



いよいよ、この旅行の目的地、ブッダガヤ。ガヤー駅からホテルの車で20分ほど走り、大菩提寺の門前に位置するマハマヤホテルに到着したのは夜明け前の最も暗い時であった。町には街灯がなく、家々から漏れ出る光もない。目に入るのは車のヘッドライトが照らす場所だけである。ホテルの看板の照明にぼっとしながらの到着であった。

一行は、各自の部屋でしばらくまどろんだ後、ホテルのレストランで遅い朝食をとった。ナン（インド式のパン）、スープ、卵料理、ほうれん草の野菜料理、カレー味の3種の肉料理、ライスにカレーのかかったもの、フルーツ、そしてチャイ。チャイはインド式のミルクティーで、コクがあっておいしい。インドの人たちは朝からこれほどボリュームのあるものを食べているのだろうか。どの料理もおいしかったのだが、私は出された食事の半分も食べきれなかった。

◆ ミッションとスーリヤ校について

さて、ブッダガヤの第一日目が始まった。いよいよミッション開始である。ミッションと聞いて、驚かれた読者もいるに違いない。観光はこの旅行の2番目の目的であって、実はイノウエさんから特別なミッションが与えられていたのである。そのミッションとは・・・現地の医療／保健支援のボランティアだったのである。

ブッダガヤ在住のインド人と結婚したイノウエさんは、妻としてこの地に溶け込み夫を支え、3児の母として子育てもしてきたのであるが、インドの村々で暮らす一般の人たちの生活を知るにつけ、この地の人たちの昔ながらの習慣が必ずしも人々を幸せにしていない面も多いと感じるようになったそうである。そして、教育という手段を使って、その生活習慣に文明の光を当て、より素晴らしい社会を築いてゆきたいと願ったのである。それが、進んだ社会インフラを持つ日本から来た自分の使命ではないだろうかと思

ったという。

日本がそうであったように、教育こそが豊かさへの道である。イノウエ夫妻はホテルの事業を拡大しながら、協力して学校を創った。現在、400人の児童生徒が通うスーリヤ校である。スーリヤとは現地のヒンディー語で太陽の意味だそう。この学校に通う子供たちは優秀で、数十倍の倍率の試験を突破してきた子供たちである。しかし、経済的な問題や、病気など、あるいは初潮を迎えたため結婚しなければならない！といった理由で退学せざるを得ない子供たちも少なからずいるという。

そこで、スーリヤ校の児童生徒たちが暮らしている地域の住環境を含む医療／保健問題を専門家に見せ、これらに何らかの解決策を持ちたいと願ってイノウエさんはボランティアを募り、私たち医師、看護師、保健師たちは、その呼びかけに応じて参加したというわけである。

もちろん、言葉も習慣も分からない者たちが何日か現地に行っただけで、イノウエさんの期待しておられるような大きな仕事ができるはずもないのであるが、それでも、行動は何らかの反応をもたらす。また、誰かが行動を起こせば、後に続こうとする人たちも出てくることもある。そのような思いから、私は第1陣としてボランティア活動を行うことにして、日本を出発したのであった。



イノウエ理事長と子供達

◆ スーリヤ校

まず、スーリヤ校の子供たちや先生たちに会いに行った。なんといっても彼らがどのような学校生活を送っているのか見てみたかったのである。スーリヤ校は衝撃的であった。子供たちの目の輝き。生き生きとした振る舞い。静かに先生の言葉に集中する。かと思うと臆せず発言する。全身で学ぶことの喜びを表現する。英語で堂々と話しかけてくる。ダンスの時間はこの地方の独特のダンスを踊り、英語劇も誰でも知っているこの地方の物語を題材にしてみんな楽しそう。校舎は狭く、子供たちはひしめき合い、夏はさぞかし暑だろうとその苦労を思わずにはいられないが、この子たちは平然と乗り切ってゆくのだ。

◆ 女性たちのおかれている状況

スーリヤ校のミシンが十台ほどおかれた裁縫の教室で、この学校の女性教師と話し合いがもたれた。

インドでは、一年間になんと183万人もの5歳未満の子どもたちが亡くなっている。そのうちの4割が、お産の前後の病気だという。

同行した保健師のAさんは、村の人たちが自分たちの力によって、健康を保ち、健康な出産と子育てができるようにするためには、日本からどんな支援ができるのかを考えたいと積極的に動かれたので、私も彼女を全面的に支援した。このような社会環境では、私の専門とする緩和ケアや整形外科の知識が必要な場面に出会うことは減多になく、保健師の仕事が全てと言っていいほど大きな位置を占めるからだ。

女性教師たちからは「村でのお産の55%が、何らかの問題がある」との話。村では、病院や専門家のもとでお産をする人は皆無で、無資格の産婆さんが手伝い自宅の不潔な土間で産むため、流産や早産・死産、



教師達とミーティング

産褥熱も多いという。また、日本の母子健康手帳のような記録がなく秤もないので、妊娠中の健康状態はどうだったのか、一体何週で生まれているのか、早期産なのか満期産なのか、出生時体重などもわからないのが普通だ。

しかも、女の子は13歳ごろの初潮と同時に性的知識を与えられないまま親同士の取り決めで結婚させられるのが一般的。まだ準備の整っていない母体が毎年妊娠して問題が起きてしまうとのこと。次々と子どもを産み続けるので、一年に2回お産を経験する人もいるし、孫の生んだ子供より末の子が年下であることも・・・？など耳を疑う話もあった。

インドでは子供は無限に湧き出てくる印象である。

(次号につづく)

日本ホスピス在宅ケア研究会

全国大会に参加して

4 階病棟看護師 井田 理恵



7月16・17日 日本ホスピス・在宅ケア研究会 全国大会 in 沖縄に参加させて頂きました。

大型の台風が接近中で影響が心配されましたが、幸いにも天候に恵まれ、青い空・青い海に囲まれた地において、～命（ぬち）どう宝を支えるていあんだ～のテーマのもと2日間の研究会が開催されました。

この研究会は、医療者・市民一体型の会であり、医療者だけではなく、在宅ケア・ホスピスに興味のある方々が参加されており、がんを患っている方・高齢者や小児の方の在宅ケア、緩和ケア、及びご家族に対するケアの在り方などについての講演・部会・ワークショップ・研究発表など多数あります。そこで、私たちは学びを深め合いました。

1日目は「エンゼルケアの現状と今後・説明できるエンゼルケア」「家族を支えるとは」「高齢者在宅医療、終末期在宅医療とは何か」「緩和ケアで何が一番大切なのだろうか」などの講演、ワークショップに参加し、自分自身反省しなければいけない点に気づくことができ、また新しい知識を得るとともに、「こうしたら良いのか」と良いケアの方法を学ぶことができました。

2日目は、4階病棟看護師4名が共同研究した「ディグニティセラピーを試みた一症例を通して学んだこと」を代表して発表させて頂きました。これは、自分の命に限りを感じた時、大切なひとに手紙を書くことで、言葉で伝えられない思いを家族や大切な人に伝えるとともに、自己の人生を振り返り、生きる意味や目的を持つことができるという精神療法のひとつです。今回、病棟の患者様が快く協力して下さい、このセラピーを行うことで患者様の心の痛みを和らげることができるかどうかを検討し、発表させて頂きました。

この発表に興味を示してくれる参加者は多く、沢山の質問やアドバイスを受けたり、第2弾を要望して下さいる方もおり、活発な意見交換ができたのではないかと思います。

初めての沖縄ということもあり、美ら海水族館へ行き、世界一の水槽、大パノラマのなかを壮大に泳ぐ魚たちを鑑賞することもでき、知・体・心ともに良い補給をさせて頂きました。今回、研究会で学んだことを今後のケアに生かしていきたいと思っています。

協力して頂いた患者様、病院長先生、スタッフのみなさん、このような場において発表させて頂きありがとうございました。感謝申し上げます。



アンケート報告

昨年度の診療実績

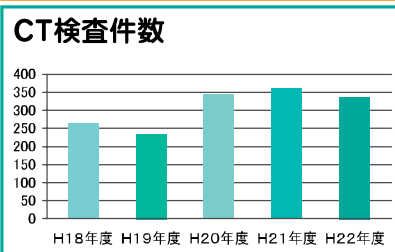
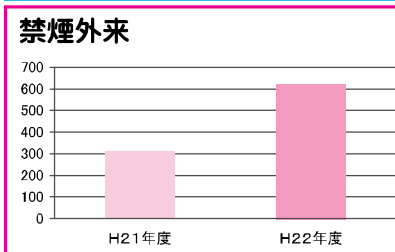
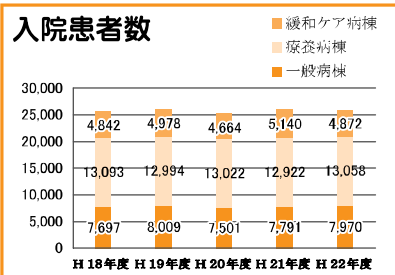
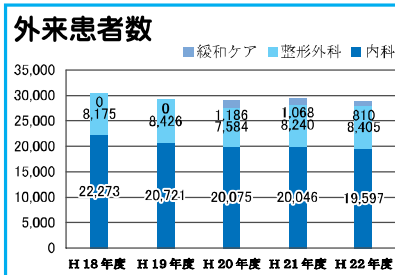
診療録管理室 明神 聡

当院における平成22年度の外来・入院患者数、禁煙外来数、CT件数をご報告致します。
過去5年間と比較して例年並みの結果となりました。これからも、皆さまに信頼していただけるよう頑張っ
てまいります。

外来患者数 外来患者数は、平成21年と比較して微減でしたが過去5年平均並みでした。
入院患者数 一般病棟は、平均在院日数は短縮してきておりますが増加しました。療養病棟は前年度と比
較して微増でした。緩和ケア病棟は、前年度より微減しましたが、過去5年間平均並みでした。

禁煙外来 禁煙外来は、前
年度と比較して
倍増しました。
タバコの値上げ
により禁煙への
意識が高まった
ことも影響して
いると思われます。

CT CT件数は、前
年度と比較して
微減でしたが、
過去5年間平均
以上の結果とな
りました。



院内行事

「ふれあい看護体験実習生」を受け入れて

看護部長 岩本 泉



平成23年8月2日、高知厚生病院では毎年高知県看護協会が主催している「ふれあい看護体験」の実習生に今年も来ていただきました。実習に参加された方は3名の高校生でした。

最初の自己紹介時に、3名とも身内に看護師がいて自然に看護師という職業を意識するようになった、自分も将来看護師になりたいと語ってくれました。病院の役割や看護とは、また、生きること、死ぬことなどの説明にも熱心に聞き入り好感が持てました。私たちも今一度原点を見つめなおし共に学習する良い機会となりました。また患者さんやご利用者さんにも新鮮な時間を過ごしていただくことができたようです。来年も継続していきたいと思います。



当院は
平成15年9月22日より
日本医療機能評価機構
認定病院となっております。



◆ 特定非営利法人
日本緩和医療学会
より認定研修
施設として認定
されました



◆ 厚生労働省より
医師の午後臨床
研修施設の
認定を受けまし
た

編集後記

暑い日が続いています。寝ているだけでも、熱中症になる場合があります。
水分の補給と、室温に気をつけて、残暑を乗り切りましょう!!



高知厚生病院

〒781-8121 高知市葛島1丁目9-50 Tel.088-882-6205 Fax.088-883-1655
ホームページ <http://www.kochi-koseihp.jp>